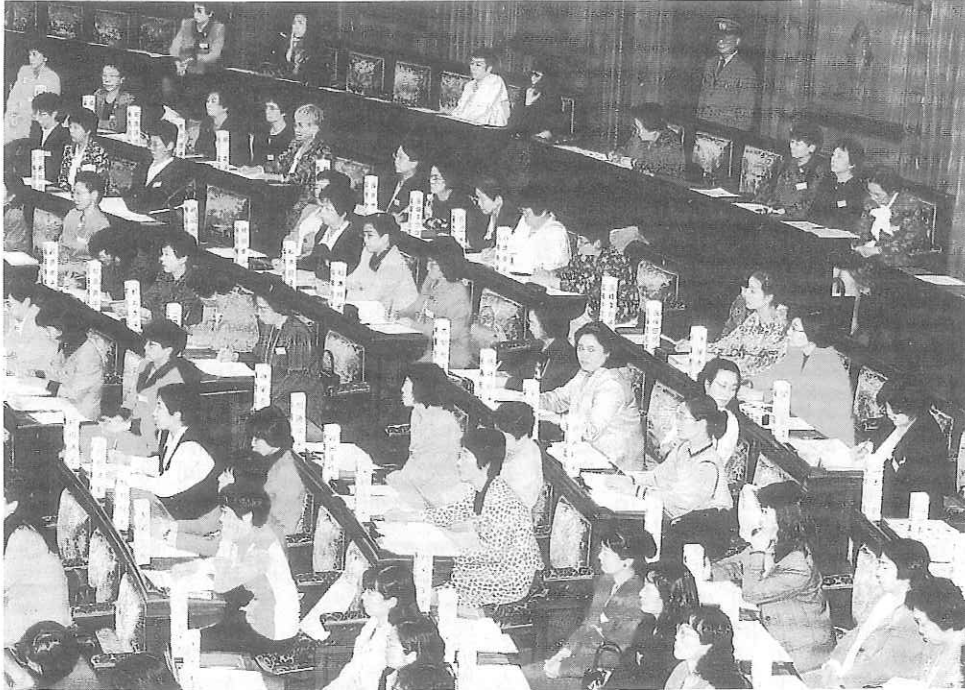


女と男、もっとわかりあうために

かれんと

No.12

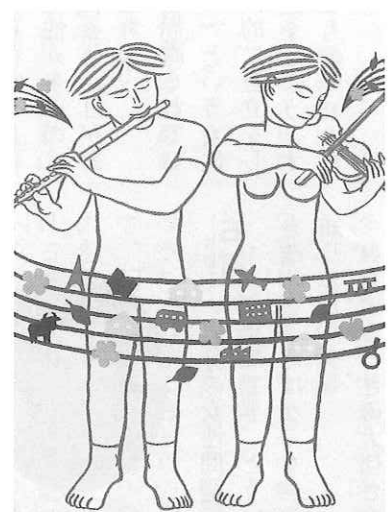
カレント
Currentとは?
時代の流れあるいは
新しい潮流



平成9年10月 女性国会開催「参議院50周年記念女性国会報告書」より

—女性のエンパワメントをめざす—

社会参加・参画への道



「総理府・男女共同参画に関するイラスト」
最優秀賞受賞作品

女性と男性が、社会の対等な構成員として、自分らしく生きられる『男女共同参画社会』の実現にむかつて、今、何が必要でしょうか。

一人ひとりの意識の中に、家庭・学校・地域・職場など、さまざまな所に、女性の社会参画を阻んでいる女性問題があります。

問題の解決には、男女がともに取り組むことと同時に、個々の女性の『エンパワメント』(力をつけること*ローメモ参照)が、強く求められています。



女性のエンパワーメントを考える

座談会

各方面で活躍されている4人に、女性が社会参加・参画を進めるためには、どのようにしたらよいかなどを話し合っていました。

司会 現在行っている女性のための活動を始めたきっかけは何ですか。

阿久津 昭和42年、婦人参政権20周年記念大会に参加し人権の大切さに気付いたことと、宇都宮大学菅原まさ教授の「男女不平等の種子を女性自身がまいていく」の言葉で目覚めたことなどです。

石岡 鹿沼市教育委員会主催の女性学セミナーを受講したことがきっかけです。

竹之内 私も女性学セミナーと県の婦人教育指導者研修会を同時期に受講し、女性の自立や地位向上のための活動の必要性を感じました。



前田さん

前田 特別な活動はしていませんが、子育てについて勉強する中で、子ども・女性・その他弱い立場の人の人権を守ることの大切さを学んだからだと思います。

司会 それをきっかけにしてどのようなことに取り組まれましたか。

阿久津 昭和37年、生活改善クラブで学び、普及所の指導を受け、農家の若妻たちでグループを作りました。そして、女性の過重労働軽減のため共同炊事や共同田植えを行い実績をあげ、夫たちの理解と協力を得ることができ、男性共々生活の改善へと発展しました。

石岡 女性学を学び、自分の女性問題に気付きました。

自分を少しでも向上させることができればと思いい、「鹿沼アテップ」の活動に参加しました。アテップでは、女性問題の解決のために、いろいろなテーマで自主的に活動しています。

竹之内 女性のための会ではありませんが、ゴミの減量化とリサイクルに積極的に取り組む拠点として「リサイクル広場ぶらうめらん」の設置に当初から関わり、現在、代表者として会の運営に携わっています。

司会 竹之内さんの活動は、参加から参画になった訳ですね。

それぞれの活動を通して、女性の現状について、どのようなことに気付きましたか。

阿久津 長年の社会慣習は根深く、一朝一夕に意識を変えることはできませんが、女性

が力をつけ行動することによって男性の理解も得ることができると思いました。

石岡 社会全体が少しずつ、女性の地位向上を考えるようになってきていますが、まだ、真の平等を理解していません。



石岡さん

また、女性自身もあいまいな態度で、自己主張ができない上、波風を立てずにいることが楽な方法であると、無意識に楽な道を選んでいきます。

これは女性自身、女性問題の殻を破ることができないため、女性問題の解決がなかなか進まない原因でもあると思います。

竹之内 自分の考えをはっきり、夫に扶養されている負い目があるからだと思います。

「経済的に夫に保護されている方が楽でいいわ」という女性の考え方が、経済的に自立をして社会参加や参画をしようとすると女性の道を阻むものの一つだと思います。

前田 まだ、女性自身が、女性の人権について正しく

理解していない点があります。差別を受けていながら、差別と気付いていないという問題があります。

自立という言葉にしても単に経済的な意味だけでとらえるのではなく、「自分の生き方は、自分で決める」という意味で理解してほしいと思います。

司会 活動を通して、あなた自身変わったことはありますか。

阿久津 政治・経済・社会問題・食文化等に関心を持つようになり、人間関係を大切にするようになり、経済的にも自立することができました。自分で意思決定ができ、自己責任として、前向きに行動ができるようになりました。



阿久津さん

石岡 自分の女性問題について認識でき、どういう点を改めなければならぬのかを知りました。

自立することの大切さを痛感し、自分の意見を主張できるようになりました。

座談会出席者

- 阿久津 ふうえさん
国際婦人年意見文入選『男女平等のために』
 - 竹之内 八重子さん
リサイクル広場ぶうめらん代表
 - 石岡 才子さん
鹿沼アテップ(真の男女平等とは、を追求し、行動する会)
 - 前田 敏通さん
平成7年度 男女共同参画社会をめざす意見文特選
 - 黒崎 通 女性青少年課長
- 司会 「かれんと」編集員



司会 女性にとって、今の社会をどのようにとらえていますか。

竹之内 まだ、今の社会には、男性には許されるが、女性には駄目という事が多いですね。いろんな会や活動の場などの方針決定に関わるのは男性で、女性が参画できるのは少ないです。そのため、男性優先の社会づくりがなされて、弱者に目を向けた社会への転換ができません。

また、社会の構造が男尊女卑や主従関係を作り上げ、女性の自立や社会参画を妨げていると思います。

阿久津 女性が能力を十分に発揮できる場が少なく、特に政策決定の場への参画が遅れています。

石岡 自分たちの生活環境を改善していくために、今一人でも多くの女性が立ち上がり、努力をしなければならぬ時期だと思っています。

司会 どのような社会が望ましい社会と考えますか。

阿久津 男女を問わず、個人の能力が発揮でき、お互いに活かしあい、共に発展できる社会だと思います。

安心して子育てができ、安心して

して老後を送れるような社会が望ましいと思います。

石岡 相手の生き方を尊重し、自分の生き方も大切にできるような社会。個の尊厳、自立した生活が営める社会。人権が尊重される社会だと思います。

司会 そのような社会に向けて、女性が力をつけていくためには、どのようにしたらよいでしょうか。

竹之内 今はまだ、専業主婦と働いている女性が半々ですが、21世紀には、ほとんどの女性が仕事をもち、専業主婦がいなくなると言われていますから、これからの女性は、外で働く中で男性と同じように力をつけていけると思います。



竹之内さん

前田 これからの女性は、仕事をを持つから大丈夫と言われますが、私はそうは思いません。

今仕事を持っている女性のほとんどが家事・育児との狭間で苦勞しています。いつの間にか女性が仕事を持つという事は、家事・育児との両立が前提条件

になってしまっています。何よりもまず、女性自身が、「女性の権利」についてしっかりと理解しなければ、世の中はいつになっても変わらないと思います。

司会 女性の気付きのためのヒントがあれば：

前田 現実問題として、「家事はどうする」「育児は誰が」といった問題を考える場が少ないと思います。今回のような企画が、社会に参加したいという女性にとって少しでも手助けになればと思います。

阿久津 高齢者の介護や子育て等の身近なところから問題点を見つけ学習活動に取り組んでいくのも良いと思います。

司会 最後にになりましたが、黒崎課長、行政の取り組みについてお願いします。

黒崎 第4次鹿沼市総合計画が1996年にできました。2010年までの15年計画で、その中に「人権が尊重される明るい社会の形成」という項目があり、その一つに男女平等社会の実現があり、主な施策としては次の4つがあります。

- ①個性を尊重し、生き生きと暮らす、男女平等の意識づくり
- ②あらゆる分野への男女共同参加・参画の促進
- ③男女が共に生き生きと働くための条件整備
- ④幸せに暮らすための健康づくりと福祉の充実



黒崎 課長

鹿沼市は、女性が力をつけ参画するために、主にこういった事業を行っています。

司会 本日は貴重なご意見ありがとうございました。

【入選標語】

「新世紀へ 両性の参画 豊かな社会」松永 勉さん（見野）

ひと
すてきな男性

ヘアデザイナー

小林 一史さん

(朝日町)

「結婚されている美容師さん」これがスタッフ募集の条件となっている美容室があります。そこで、社長の小林さんに、お話を伺ってみました。

理・美容師は、男性は一生の仕事として続けられるのに対し、女性は優秀な技術を持ちながら、結婚や出産で仕事を辞めてしまう人が多く、出産後は、元の職場に復帰しにくいのが現状です。

理由は、夜遅くまでの勤務や日曜出勤ができないからです。

家族とのコミュニケーションを大切にしながら、技術も生かして働きたい。そんな意欲的な女性のために、小林さんは、2年前に、勤務時間9時～5時、日曜休日という働きやすい環境の美容室を開きました。

この求人に対して、たくさんの応募がありました。現在、鹿沼市内の店舗に3人、宇都宮の江曾島店には5人のスタッフが働いています。皆しっかりした技術と社会的常識を持ち合わせたスタッフなので、安心して任せているそうです。

小林さんご本人は、ヨーロッパに技術留学をし、数々の国際大会で多くの賞を受け、先代からの家業を継いで、腕を振るっています。

理想の家庭は？の問いに、「家庭は社会の一番小さな単位。個を尊重しながら、自分・妻・子どもが、それぞれ人生を生きていく中で、お互いに話し合い、好きなことに色々チャレンジしたりして、人間として生きる喜びや、目標を持ち続ける場になれば、素敵なことです。」と答えてくれました。

家族一人ひとりを尊重し、温かい家庭を大切にしている人だからこそ、このような事業が始められたのだと思いました。

「我以外皆我が師」
自分の可能性に今後ともチャレンジして、より良い編集をめざしたいと思っています。

庭のすみれの花も暖かい日射しを浴びて輝き、穏やかな安らぎを感じるこの頃です。
『かれんと』のボランティア編集員としてようやく一年。広報紙の大切さや紙面作りの色々な事を学びましたが、一番の収穫は人との出会いでした。



編集後記

女性の海外研修に参加して

◆オランダの環境

川島 孝子

私たちは、男女共同参画社会をめざし、『女性の自立』を大きなテーマに掲げ、福祉・環境・教育について学びました。オランダにおける環境問題を取り上げると、ごみの分別が徹底されており、使用できるものはすべて再利用しています。電車の中には広告がなく、郊外や街中には自動販売機がないなど、国全体がゴミを作らない、出さないための努力をしていることに感心しました。

自然との共存、人々の心のゆとりを感じました。

◆ネットワークとエンパワーメント 板橋 和子

「ボランティアを長続きさせるには、自分がまず楽しんでください」という、フランスのボランティア・アソシエーション会長の話、税金や環境問題・健康・育児支援など多くの分野で活発に行動し、政治的にも大きな影響を与えているオランダ女性会議のことなど、学んだことがたくさんありました。この研修で得た経験をもとに、ネットワークとエンパワーメントで男女共同参画社会をめざして行動し、参画していきたいと思っています。



分別収集のための大きなゴミ箱 (オランダ)

意見文・標語の入選

9月25日号の「かれんと」で、男女共同参画社会をめざす意見文・標語を募集しました。選考委員による厳正な審査の結果、次の方々が入選されました。

・意見文 「男女共同参画へ心を開こう」

松永 勉さん (見野)

・標語

松永 勉さん (見野)

高田富士江さん (板荷)

入選標語は、座談会記事の下欄に掲載しました。



ひとくちメモ



女性のエンパワーメント empowerment

力をつけること。女性が、政治・経済・社会・家庭などのあらゆる分野で、自分たちのことは自分たちで決め、行動できるよう、能力をつけ、パワーアップしようとする概念のこと。

1人のリーダーが引っ張っていくのではなく、草の根の女性たちがネットワークしながら変革していく、「連帯での行動」を志向するのが特徴です。